魚津市新庁舎整備検討委員会 第8回会議 会議録（要旨）

【開催状況】

- 1 開催日時 令和6年6月28日（金）10:00～11:50
- 2 開催場所 魚津市役所2階 第1会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員
石川委員、伊藤委員、浦田委員、大島委員、大野委員、木下委員、清水委員（会長）、西村委員、平田委員、山本委員、吉森委員
 - (2) 市
副市長、総務部長、財政課長ほか事務局員
 - (3) コンサルタント
株式会社 建設技術研究所
- 4 欠席者
野澤委員

【関連資料】

- 資料1 令和6年度の検討スケジュール
- 資料2 新庁舎に導入する機能
- 資料3 市庁舎の集約化と整備規模

【会議内容】

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 新庁舎に導入する機能について
 - (2) 市庁舎の集約化と整備規模について
- 3 その他
- 4 閉会

【事務局】

資料1及び資料2について説明。

委員長

資料1から2まで事務局から説明していただきました。ここまででご質問やご意見はありませんか。

A委員

ワンストップサービスの導入は見送るということですが、総合案内での受付時に、高齢者、お子様連れの方、障がいをお持ちの方ということが分かりますから、必要に応じてプライバシーに配慮して、相談室へ誘導することはできると思います。ワンストップサービスの導入を見送るのではなく、細かい配慮ができればと思います。

事務局

仰るとおり障がいをお持ちの方や高齢者の方々への配慮が大事だと思っております。ワンストップサービス窓口は設置しませんが、利用者の方々の状況に応じて、例えば個室に入っていて、そこに職員が順次入ってきて対応するといったきめ細やかな対応はしていきたいと考えています。

委員長

職員の人員配置の影響により市民の方を長くお待たせする場合もあることを考えてワンストップサービスの導入は見送るということですが、できる限りの対応はするという事です。

その他ご意見はございますか。

B委員

総合案内の窓口にあattendする職員は配置されますか。

事務局

市の職員か外部委託するかは分かりませんが、人を配置して対応することをイメージしています。

B委員

現在も窓口の方にペッパー君がいて子供たちが大変喜んでいますが、人とのコミュニケーションを大切にいただけたらと思います。

C委員

説明を聞いて率直にすごく贅沢な施設だと思いました。全ての機能を導入できたら良いとは思いますが、費用との兼ね合いが気になります。導入の有無については、○か×ではなくグラデーションがあるはずで。費用の都合で精査することになったときに、○か×だけでは判断できないので優先度を数字で表すべきだと思います。

市民が利用できるスペースについてはあれば良いと思いますが、コミュニティセンターのような代替えできる施設もたくさんあります。そういったものがあるのにあえて市役所に作るのはいかがでしょうかと思います。特産品販売スペースなども民間と競合してしまうので、良くないのではと思います。

委員長

財源については、本日の議題の(2)で少し扱います。また、第10回検討委員会で概算事業費についてご意見をいただく予定ですが、事務局から何か返答ありますか。

事務局

ご指摘のとおり、導入機能には優先順位があると思っておりますが、災害に強い庁舎とするための機能は必須と考えています。市民が交流するスペースについては、設置していない自治体もありますが、魚津市の庁舎は公園と隣接しており、駅前を含めた一体でのにぎわい創出という意味でも導入したいと考えています。

費用については、議題の(2)でこういった機能を導入した場合の仮の試算をお話しします。また、会長からも申し上げたように、概算事業費は第10回検討委員会でお示することになりますが今の概算より大幅に増加するようであれば、財政状況も踏まえながら導入を見送る機能を検討することもあり得ると考えております。

委員長

事業費と機能については切っても切れないものですが、資料1のようにいくつかの項目に分けて、重点的に皆様からご意見をいただくスケジュールとしております。

C委員

市の方でも導入機能の優先順位をつけて整理していただきたいと思います。

事務局

今、会長から申し上げたとおり、今後、配置や事業費についての検討を進めていくためには、その前提としてどういった機能を導入するのか決定する必要があります。本日お示しているのは、ここまでの庁内の検討結果として不要であると考えた機能を外した状態であり、事務局としては今回お示した機能を全て導入したいと思っておりますが、今後想定よりも事業費が大きくなった場合には、優先順位をつけながら導入を断念する機能も出てく

と考えています。今日は、お示した機能を導入することを前提として今後の作業を進めていくことについてご理解いただければと思っております。

D委員

資料2の6ページ、働きやすい執務環境のところですが、是非フリーアドレスを導入していただければと思っております。私の会社においてもフリーアドレスを導入して、席数を減らした分だけ1人当たりのスペースとしてはゆとりを持たせることができました。

フリーアドレスにすると書類を置いておくことがなくなりますので、是非ペーパーレス化も徹底していただきたいと思います。袖机もなくなり、基本的には個人ロッカーを運用しています。固定席をやめることで、書類を探さなくてもよくなりました。

また、予約制の個人ブースを導入しました。時間単位で予約できるフリーアドレスのシステムもありますので、会議室を1人の集中ブースとして時間単位で区切りながら使うことで業務効率化も図れました。

一方で、フリーアドレスにしてしまうと、今まで1つの課で情報を管理していたものが隣の席に座ると見えてしまったりすることもあります。市役所でも他の課に見せたら困る情報などあると思いますので、それぞれのパソコンにセキュリティに配慮したプライバシーフィルターをつけることも検討していただければと思います。

その他、書棚を1か所に集約して権限を持った人しか入室できないようにし、基本的にはデジタルで確認すると良いと思います。これらにより、将来的にはランニングコストが抑えられると思います。イニシャルコストは掛かるかもしれませんが、長期的な目線で業務効率化を検討いただければと思います。

副市長

公務員には守秘義務や情報保守という役割もありますが、労働形態が変化している社会状況に合わせていけるよう、市としていろいろ取り組んでいるところです。

市民の方ができるだけ市役所に来なくても手続ができるようにするなど、新庁舎ができるまでに取り組む必要があります。新庁舎開庁と同時に導入するもの、現時点から導入する必要があるもの等の整理とあわせて、費用も積算していきます。現時点ではお示した全ての機能を導入するつもりでいますが、検討の中で皆様のご意見をお聞きしたいと思っております。

E委員

再生可能エネルギーの活用が非常に重要だと思います。太陽光発電で余った電気の蓄熱は考えていますか。

事務局

現時点では、庁舎運用に必要な範囲内の規模で再生可能エネルギーを導入することを想

定しています。どれぐらいパネルが設置できるかということも踏まえて、蓄熱施設が必要と
いうことであれば今後の検討課題になると思っております。

E委員

コスト面の問題はありますが、蓄熱することで災害時に活用できます。また、電気
自動車にも余った電気を活用することができると思っておりますのでぜひ導入を検討してほしい
と思います。

【事務局】

資料3について説明。

委員長

資料3について事務局から説明していただきました。市庁舎の集約化の検討と整備規模、
整備費の仮の試算についてのご説明でした。ご質問やご意見はありませんか。

D委員

4ページ目の新庁舎の規模及び整備費の仮試算ですが、整備費と30年間の管理費を合計
すると、A案は約85億円、B案は約86億円でほぼ同額です。金額に対して延床面積を小さ
くしておこうというふうに見えるのですが、その理由をお聞かせください。同じ金額になる
のであれば、そんなに小さくしなくても広く使えばいいのではと単純に思いましたのでお
尋ねしました。

事務局

将来的なことを考えると、職員数の減少により新庁舎に空きスペースができたときに、健
康センターの機能を集約するという余地を残しておいた方が、将来の長いスパンで考えた
ときに公共施設の効率的な活用に繋がるのではないかと考えてB案とさせていただきます
た。庁内の検討の中でも、集約するなら最初からすれば良いのではないかという意見もあり
ましたが、事務局としては、将来空きスペースが発生した際にその活用方法を検討するの
ではなく、将来集約することを見越した新庁舎としたいということを説明し、皆様にお諮りす
る案としてはB案が良いということになりました。

委員長

庁内で検討会議を何度も開催し、その取りまとめの結果を事務局からご説明していただ
いたと理解しています。健康センターは本庁舎、第1・2分庁舎より新しく、まだ利用可能
な施設であるということも検討の上、B案ということでご説明していただきました。

F委員

エネルギーの管理部門は地下にあるのでしょうか、この計画でも地下と設定しているのでしょうか。2階以上に設定するのが良いと思います。

事務局

どのフロアにどのような設備を配置するというのは次回の検討委員会でお話ししますが、基本的には仰られた電気設備などの関係は浸水のことを想定すると上の階にあった方が良く考えております。

F委員

私は最初から全部集約したほうが良いと思います。また、新庁舎整備のタイミングで、建物についてだけではなく、行政のあり方についても検討するチャンスだと思います。新しい体制づくりに今から取り組むべきです。

令和11年度開庁前提ではなく、もっと前倒しして整備を進めたほうが良いです。早くやらないと建設コストも上がります。

副市長

今後も建設コストは上昇し、借り入れの利息も上がると言われています。11月の第10回検討委員会の際に説明する概算事業費は、現時点の想定費用から変わるかもしれません。F委員が仰るように少しでも早くした方が、建設していく上で明確なビジョンが見えてくると思います。また、組織の在り方、行政と民間の在り方などについても今変えるチャンスだと思っており、そういったことがこの市庁舎の建設にも寄与すると考えておりますので、今後検討していきたいと思っております。

G委員

今日の説明をお聞きして、あくまで現時点が前提になっていると思いました。令和11年までのいろいろな技術革新による効率化を想定したときに、職員の数はどうなるのかということを実現時点で試算されたということは理解はしました。

何年か先を見据えたときに、シナリオがいくつかあって、職員数もこうすればこうなるということを想定して全体の費用をはじき出すというのは、一般的な経営手法だと思いますので、そういった視点は重要だと思っています。職員数を減らせと言っているのではなくて、こうすればこうなるという理論上のものがあってしかるべきと思っています。

建設コストは概算ということですが、これで収まるのか疑問に思うところもあります。第10回検討委員会では、概算事業費を出すということですが、どの程度の概算となるのかお聞かせください。

事務局

今回お示ししている事業費は、この会議に合わせて算出した概算の額で、令和9年着工のデフレータ値などを考えながら算出しました。

第10回検討委員会の概算事業費は、設備費も含めて算出します。物価上昇なども想定されますので確定はできませんが、概ねその数値に従って進めていくものと考えています。

G委員

建設関係の知人によると建設コストは決して下がることはないだろうということですし、楽観視できるものではないと思っています。

財政的な措置については、市の負担が少なくなるようにしっかりと働きかけをしていただきたいと思います。私の立場で総務省の財政課長にお願いはしますが、やはり行政としてしっかりとした対応を早めにしておかれるよう重ねてお願いいたします。

副市長

再生可能エネルギーや防災関係の国の補助金があり、既に働きかけもしておりますが、ある程度規模などが確定しないと難しいところもあります。早く規模等を確定して、国への働きかけも進めていきたいと思っております。

E委員

次回の検討委員会で配置計画・平面計画が出てくると思います。これから庁内で検討されると思いますが、黒部市のように吹き抜けにすると開放感があってよろしいのですが、コストアップの要因になります。そういったことも考慮していただければと思います。

C委員

私もF委員と同じようにA案が良いと思っています。将来的に機能集約する際にはコストが掛かるので、最初に集約するべきだと思います。

一番強く思うのがイメージが大事ということです。私が移住してきた6年前、市役所に行っても子どもがいなくて不安になったのですが、健康センターの子育て支援センターに行ったら初めて子どもがいると安心しました。市庁舎に子育て支援センターを作ると、子どもが入りやすくなるようにすると市のイメージアップにつながると思います。市庁舎には他市町村や県内のいろいろな企業の人を訪れるので、子どもがいるとイメージアップに繋がります。先日、黒部市の施設に行った際に、小学生がたくさん遊んでいて、街が元気であると感じられました。整備費がいくら掛かるのかはもちろん大事ですが、それ以上にイメージも大事です。子どもたちが市庁舎に集まってくるような仕組みを作ることが大切なので、子育て支援センターのある健康センターは市庁舎に集約してほしいと思います。

副市長

B案は健康センターは新庁舎整備時には集約しないという案ですが、4ページ目にあるとおり子育て部門に関しては庁舎に集約する予定ですので、子育て支援センターは庁舎内への配置を検討しています。総合的に検討しながら子どもたちの活力が溢れる庁舎を目指したいと思っています。

A委員

これまでの委員会の中で私たちがいろいろ申し上げてきたことが資料2の中に集約されているのですが、文章だけではなかなか議論が進みません。ある程度図面がないと想像できないし検討のしようもないと思います。

設計図を作成すれば、試算ができて材料のこともわかってくると思います。早く承認した上で次の段階に進むのか、この段階で私たちがいつまでも議論するのが良いのかということを考えなければいけないと思います。

副市長

配置については次回の委員会でお示ししますので、それを見ていただいでご議論いただきたいと思いますが、どのような機能を導入するかを検討したうえで配置イメージを作成したいと考えています。

H委員

資料の4ページ目についてお尋ねします。延床面積のところですが、A案は9,748㎡を国の基準でいくと約8,100㎡のところを7,000㎡くらいまで縮小するというのでしょうか。

事務局

集約施設現面積の9,748㎡は、集約する施設の面積を単純に足し合わせたものです。その右の国交省基準等は、現時点の職員数をベースに国交省基準を用いて延床面積を算出した場合にこれだけになるというものです。

その上で、健康センターからの子育て部門の集約やテレワークによる職員数の見直し、第2分庁舎の活用、健康センターの事業スペース面積の縮小による見直しを全て行った場合には、A案でいうと8,100㎡から7,000㎡に減少するということになります。

H委員

A案では9,748㎡が約7,000㎡となり面積の減少率は28%、B案は8,363㎡が約6,500㎡となり減少率は22%ですが、減少割合が異なるのは健康センターに要因があるということですか。

事務局

A案の面積である9,748㎡及び約8,100㎡には健康センターの事業スペース1,000㎡が含まれており、この面積を見直すことによって延床面積が700㎡減ります。一方、B案は、健康センターを新庁舎整備時には集約しませんので、こういった減少要因がありません。そのため減少率で比較するとA案の方が大きくなるという形です。

H委員

検討のスタート時からコンパクトな庁舎にしていこうという概略の方針が示されておりました。デジタル化やペーパーレス化を推進していこうという方針もありますが、その割にはあまり面積が縮小されていないのではないかと感じています。レイアウトをこれから柔軟に検討できると思いますので、面積縮小を検討の要素として盛り込んでいただきたいと思います。着工時点では、建設コストはさらに上昇すると思いますので、リスクヘッジの意味でもコンパクトな庁舎としていただくと市民としては良いと思います。

事務局

書棚が非常に多くスペースを取っているのので、ペーパーレス化を新庁舎整備前から進めていくべきと思っています。ただ、なかなか進んでいないという現状がありますので、この新庁舎整備をきっかけに、執務スペースが小さいと分かれば、文書量を減らしたりデジタル化を推進するという動きが庁内でも出てくると思っています。

国の基準をベースに計算しているので書棚があることを想定した面積になっていますが、現状と同様の書棚スペースを確保することは想定していませんので、今後の配置計画の中で考えていきたいと思っています。

なお、建築単価については、現在の単価ではなく今後も上昇することを想定した単価としています。

副市長

国自体のDX化の推進が遅れていることもあり、国がDXを進めても実際に市にその効果が波及してくるのは大分先ということもあります。市でもDX化を推進して、職員数を削減できないかと考えていますが、いろいろなことが突発的に発生して対応できないということもありますので、そのあたりを見据えながら、大きい流れでは委員がおっしゃるような形で進めていきたいと思っています。

I委員

人口減少と職員数の減は正比例で考えているような印象を受けました。第1回の検討委員会からこんなに大きな施設が必要なのか、こんなに予算が必要なのかと話に出ているので疑問に思いました。

副市長

次回の検討委員会には配置計画・平面計画をお示ししたいと思っております。

人口が少なくてもいろいろな業務は発生します。人口減少と職員数の減は必ずしも一致しません。その辺りも含めたモデルを作成しますので、議論をお願いしたいと思っています。

委員長

新しい委員ということに関してですが、現委員に継続していただけるという選択肢はあるのですか。現委員は地元の方がほとんどだと思いますが。

副市長

継続していただける方には継続していただきたいと思っていますし、委員の体制も今後検討する必要はあると思っています。

委員長

人事のことですが、大抵10年先を見越して職員の年齢構成のピラミッドが崩れないように人事計画を考えるとと思います。将来の情勢などを分析されて、職員数を減らせない或いは増やすべき分野や減らす分野を予想して、それに合った人事計画を進めていくのだと思います。それをしっかりやらないと人員不足或いは過剰な人員を抱えることになるかもしれません。

仮の試算に用いた職員数は令和6年4月1日時点になっていましたが、少なくなる見通しであるならば、財源の余裕が出てくるかもしれません。まだざっくりとした試算なので今後詰めていかれると思いますが、組織の人事計画は先を見通して検討をする必要があると感じています。

副市長

市では定員管理計画があり、将来の職員数を決めております。大きな流れとしては、退職者数に基づいてどれくらい採用していくかということや、いろいろな事務が今後どうなっていくのかということも踏まえながら決定しています。

今年度、令和7年度からの5年間の定員管理計画を策定する予定です。デジタル化やいろいろなことがあり、どのような見込みにすればいいのか検討中です。ただ、職員を採用したくても、デジタルの専門職や、建築、土木、保育士関係については応募がないという問題があったり、一般職についても、応募人数が減少しており、今後採用が難しくなると思われます。

将来的な流れで全体の定員をどうしていくかは重要な視点ですので、それらのことも踏まえながら検討していきたいと思っています。

I 委員

2、3年で職員は異動しますが、防災危機管理室については、異動しない専門職を配置してもいいのではないのでしょうか。また、防災機器管理室の職員数が妥当なのかということにも疑問があります。

副市長

仰るとおり防災担当の職員は異動もしますし専門性に欠けるという指摘もあります。庁舎の建設とは関係なく進めている話ですので、組織の見直しの中で防災力強化に努めていきたいと思っております。

委員長

市庁舎の役割は多岐にわたりますが、その一つに防災拠点としての役割もありますのでよろしくお願いします。

前職の中で、託児所を設置することで若い職員を集めることに役立ちました。若い職員が集まるようにすると良いと思います。

副市長

若い方に応募していただければいいのですが、最近は先程も申し上げたような事情で募集年齢は引き上げております。IターンやJターンで帰ってこられた方や家族がある方も勤めることができるような環境にしております。

最近は公務員にあまり魅力を感じないということで、職員採用に苦戦していますが、社会のために役に立ちたいという強い想いのある人を採用したいと思っております。

委員長

本日予定された議題（1）、（2）について終了いたしました。次回検討委員会は、資料1にありますように、第9回検討委員会を9月下旬に計画しております。詳細な日程については別途調整されるということです。

副市長

皆様、熱心なご議論をありがとうございます。次回、配置についてお示しするというところで、B案で配置をお示ししたいと思っております、またご議論をいただければと思っております。

魚津市が今後ますます発展していくためには、新庁舎の建設も非常に重要なことだと思っておりますので、皆様方のお知恵を拝借して、市民にも喜ばれ、職員も働きやすい、市の活力の源になるような庁舎が建設できれば幸いですと思っております。

これからも皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

以上